



まち発見レポート

斜里のまちで見つけた「発見」をご紹介します。
また、みなさんからも情報を募集しております。
☎ 企画総務課 企画係 ☎ 0152-23-3131 内線 210

緊急輸送訓練を実施 ウトロ口孤立想定

11月21日(休)、大規模地震等によりウトロ地区が孤立状態となった場合を想定した「斜里町ウトロ地区への緊急輸送訓練」を実施しました。

訓練には、主催した北海道オホーツク総合振興局および斜里町のほか、消防・警察・自衛隊など計11機関が参加。実際に巡視船やヘリコプターを使用して、緊急時に必要な人員や物資の輸送を行いました。緊急性の高い役割を担う各機関が緊急輸送を体験するとともに、相互の役割や使用可能な輸送手段について確認することができました。



ヘリコプターによる傷病者の輸送訓練



バス車内を飾り付ける園児たち

園児がクリスマスバス飾り付け

12月2日(月)、市街地巡回バス「しゃりぐる」で「クリスマスバス」を運行することに伴い、双葉保育園の子どもたちによって車内の飾り付けが行われました。

園児たちは、クリスマスツリーや雪だるまの装飾を思い思いに飾り付けて満足そうな様子。「クリスマスバス」は12月3日(火)～25日(水)の期間限定で運行され、乗車した小学生以下の子どもたちには記念品がプレゼントされるなど、町内のクリスマスムードを盛り上げました。

瑞宝双光章 地域防災への功績称えて

12月12日(休)、い が ら し か ず ひ こ五十嵐一彦さんに消防組合管理者である山内町長から瑞宝双光章（叙勲）が伝達されました。

五十嵐さんは消防団員を昭和49年5月に拝命され、平成31年に消防団長として退団されるまで約45年間務められました。

長きにわたる斜里町の地域防災、防火に関する功績や消防団員の指導育成など消防力の強化に尽力された功績が評価されました。この度の受章誠におめでとうございます。



五十嵐一彦さん(右)

しれとこざい だん 知床財団だより

2025年1月号
No. 96



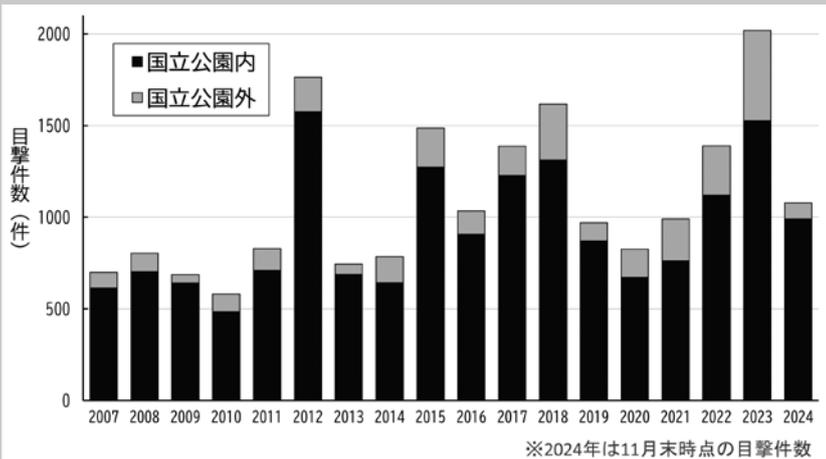
知床財団は、知床の自然を「知り・守り・伝える」ために斜里町と羅臼町が設立した財団です。
野生動物対策や調査研究、森づくり、環境教育活動等を行なっています。

TOPIC
1

斜里町のヒグマ事情

2024年の目撃件数 **1,078** 件[※]

※2024年11月末時点



知床のひぐま
SHIRETOKO BROWNBEAR

ヒグマの生態から対処法まで網羅したWEBサイト
最新の目撃情報はこちらをチェック
<https://brownbear.shiretoko.or.jp/>



2024年の斜里町内でのヒグマ目撃件数は1,078件でした(11月末時点)。大量出没のあった2023年と比較するとおおよそ半減していますが、それでも1,000件を超える高い水準を記録しました。その中で、町内でのヒグマの有害捕獲数は18頭でした。内訳は農地での捕獲が14頭、真鯉地区で2頭、ウトロ近郊と知床五湖園地で各1頭となっています。

このような状況の中、今年も斜里町役場と知床財団では斜里やウトロ市街地の周辺に電気柵を設置しヒグマの侵入を防ぐ取り組みを行いました。また、地域の皆さまの力もお借りしながら、市街地内の藪の刈り払いなどの対策も続けています。

今後もヒグマの目撃情報やご不安な点がありましたら、斜里町役場または知床財団までご連絡ください。

TOPIC
2

20年来にわたる課題

未だ解決せず ～岩尾別川を例として～

9月以降、国立公園内の岩尾別川周辺では、ヒグマを目当てにカメラを構えた多くの方が川沿いに待機する状態が2か月間ほど続きました。現場では、車が通れなくなるほどの渋滞が頻繁に発生したほか、ヒグマへの接近やつきまといなど万が一の事故が起きかねないような行動を取る方が何度も確認されるような状況でした。



20年以上続くこの課題を解決するべく、2023年にはヒグマへの接近等を制限することを目的に法律(自然公園法)も改正されましたが、当財団だけではなく環境省や地元警察も現場のパトロールや注意喚起等を毎日のように行ったものの、解決に至る明確な成果はないままシーズン終了となってしまいました。2025年も世界中から多くの方が知床を訪れることが予想されます。世界自然遺産登録20周年にあたる年でもありますが、知床は今も多くの課題を抱えています。